

製品名: TAF II p100 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18607**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:5000-1:10000
分子量	87kDa

抗原情報

遺伝子名	TAF5
別名	TAF5; TAF2D; Transcription initiation factor TFIID subunit 5; Transcription initiation factor TFIID 100 kDa subunit; TAF(II)100; TAFII-100; TAFII100
遺伝子 ID	6877.0
SwissProt ID	Q15542
免疫原	抗血清はヒト TAF5 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 381-430

背景

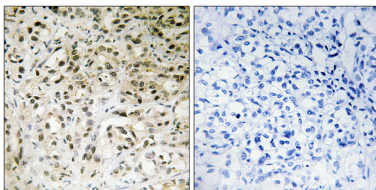
RNA ポリメラーゼ II による転写の開始には、70 種類以上のポリペプチドの活性が必要です。これらの活性を調整するタンパク質が転

写因子 IID (TFIID) です。TFIID はコアプロモーターに結合してポリメラーゼを適切な位置に配置し、転写複合体の残りの部分を組み立てるための足場として機能し、調節シグナルのチャンネルとして機能します。TFIID は、TATA 結合タンパク質 (TBP) と、TBP 関連因子 (TAF) として知られる進化的に保存されたタンパク質群で構成されています。TAF は、基礎転写に関与したり、コアクチベーターとして機能したり、プロモーター認識に機能したり、一般転写因子 (GTF) を修飾して複合体の組み立てと転写開始を促進したりする可能性があります。この遺伝子は、その複合体のすべての転写能のある形態に関連する TFIID の不可欠なサブユニットをコードしています。このサブユニットはドメインと強く相互作用します。TAF5/TAFII100 の異なるドメインは、転写因子 TFIIFB (RAP30) との機能的な相互作用および TFIID 複合体への組み込みに必要です。機能: TAF は、転写因子 IID (TFIID) 複合体、PCAF ヒストンアセチル化酵素複合体、および TBP を含まない TAFII 複合体 (TFTC) の構成要素です。TAF の構成要素である TIFFD は、RNA ポリメラーゼ転写の制御に不可欠です。TAF5/TAFII100 は、ヒストン H4 関連の TAF6/TAFII80 およびヒストン H3 関連の TAF9/TAFII31 と強く相互作用するほか、TAF5/TAFII80 と TAF6/TAFII31 の両方からなる安定な複合体とも強く相互作用します。TAF5/TAFII100 と TBP、TAF1/TAFII250、TAF11/TAFII28、および TAF12/TAFII20 との、明らかに弱い相互作用も観察されていますが、TAF7/TAFII55 とは相互作用が観察されていません。類似性: WD リピート TAF5 ファミリーに属します。類似性: 1つの LisH ドメインを含みます。類似性: 6つの WD リピートを含みます。サブユニット: TFIID と PCAF は、TATA 結合タンパク質 (TBP) といくつかの TBP 関連因子 (TAF) で構成されています。TBP は TFTC の一部ではありません。TFTC-HAT 複合体の構成要素であり、少なくとも TAF5L、TAF6L、TADA3L、SUPT3H/SPT3、TAF2/TAFII150、TAF4/TAFII135、TAF5/TAFII100、GCN5L2/GCN5、TAF10、および TRRAP から構成される。SV40 ラージ T 抗原と相互作用する。

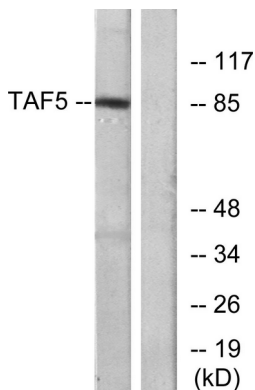
研究分野

基礎転写因子;

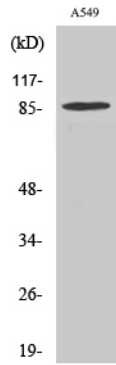
画像データ



TAF5 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肝癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした画像。



TAF5 抗体を用いた A549 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TAF II p100 ポリクローナル抗体を用いた様々な細胞のウェスタンブロット解析